



# 川崎大師ロータリークラブ 週報

例会日:毎週水曜日 PM12:30~  
 例会場:大本山川崎大師平間寺信徒会館  
 事務局:〒210-0812 神奈川県川崎市川崎区東門前1-15-10 カーサ石井1F  
 Tel:044-277-7569 Fax:044-288-8550  
 URL <http://www.kawasakidaishi-rc.com/> E-mail: [daisi-rc@eagle.ocn.ne.jp](mailto:daisi-rc@eagle.ocn.ne.jp)

会長 牛山 裕子  
 副会長 須山 文夫  
 幹事 水口 衛  
 SAA 松本 和晃

第2103回（本年度 第4回）例会 平成28年7月27日 一晴一

- 司会 松本 和晃 S A A
- 点鐘 牛山 裕子 会長
- 斉唱 「我らの生業」  
伊藤 佳子 ソングリーダー

ゲストのご紹介 牛山 裕子 会長

川崎RC会長 野中 茂様  
 川崎RC幹事 横田 圭二様



御挨拶 川崎RC会長 野中 茂様

川崎RC第66代会長をさせていただきます野中です。記念すべき牛山年度の第一例会にまいったのですが、今日一緒に参っておる横田幹事となかなか日程があわなく今になってしまったことをお詫び申し上げます。今から3年前、市川ガバナー年度の時に当クラブにはチャリティディナーパーティを企画していただき、大変な苦勞をしていただきました。当時の鈴木会長、渡辺チャリティディナーパーティの委員長本当にお世話になりました。3年前に斉藤大会委員長並びに当時担当幹事で横田地区副幹事とこちらにお邪魔しております。縁というのは不思議なものでその当時のご縁が今日私が会長でまた横田さんに幹事を引き受けていただきました。これもロータリーのご縁かなと思っております。本年度

私共川崎RCが青少年交換のホストクラブをつとめさせていただくことになりました。フィンランドからエバタラヨウテンセレナンドさんという17歳の高校生の子が来られます。今メールでやりとりをしていますが日本語は全然できないということです。

8年前にお世話をしたフィンランドのカキアポレンサンは来る前に日本語である程度やりとりしておりましたが今回、全然できないということで、やがて日本語ができるようになったあかつきには再びお邪魔させていただきたいと思っております。その節は宜しくお願ひします。今年1年、宜しくお願ひします。貴重なお時間ありがとうございました。

本日の卓話者のご紹介 牛山 裕子 会長

NPO法人こども未来塾理事長 青山 正彦様

来訪ロータリアンのご紹介 中村 孝親 睦活動委員長

横浜中RC 谷川 操 様

会長報告 牛山 裕子 会長

・パズルでロータリー 当選された方がいらっしゃいます。中村真治 会員





・R12590地区会長・幹事会の報告をいたします  
7月21日18時～約3時間にわたり7クラブの会長幹事がクラブの情報交換・意見交換をしました。  
当クラブはまず、ローターアクトを再立ち上げすることで他クラブにご協力をおねがいをしました。

・メイクアップの件、先週の例会で私がメイクアップコンシェルジュになるので、1年間毎月メイクアップしましょうと提案をしました。  
これはまだ理事会を通っておりませんので正式に申し上げられることではないのですが、9月、今日お見えの谷川さんのクラブ、横浜中ロータリークラブへ私共の高濱玲奈会員が卓話にお招きいただいております。テーマは「おかみさん、平成場所」です。  
9月16日金曜日、12時30分です場所はホテルニューグランドです。  
皆様、高濱さんを応援しながらメイクアップに行きたいと思えます。  
細かいことはまた改めて出席委員会からご連絡申し上げますので宜しくお願いします。

幹事報告

水口 衛幹事



- ・ロータリー手帳…確認をして訂正をお願いします
- ・ロータリー財団から財団補助金ハンドブック…メールボックスに配布
- ・社会福祉法人さくら福祉会 理事長より広報誌が届いています…回覧
- ・例会変更のお知らせ…回覧
- ・8月10日暑気払い移動例会の出欠表…回覧、未記入の方は記入下さい。
- ・事務局に横浜ベイロータリークラブから例会開催日の変更の案内がきています。

本年度9月より第2・4月曜日、月2回の例会に変更されるということで案内が来ています。…回覧

・2016-17年度横浜東ローターアクトクラブから8月第1例会の案内がきています。参加者は事務局に連絡をください

日時：8月3日水曜日20時～ ホテルキャメロットジャパン

出席報告

石渡 利治出席委員長

	会員数	対象者	出席	欠席	出席率
2103回	58	48	26	22	54.16%
2101回	58	48	28	20	58.33%
前々回の修正	メイクアップ 4名		修正出席率		66.66%

メイクアップ

野澤 隆幸、林 鶴、水口 衛、坂東 保則  
各会員

スマイルレポート（ニコニコボックス）

須山 文夫副会長

川崎RC 会長 野中 茂様、幹事 横田 圭二様  
牛山会長、水口幹事 お世話になります。本日は表敬訪問に参りました。よろしくお願ひします。

横浜中RC 谷川操様

横浜中RCより伺わせていただきました。地区米山奨学金増進委員の谷川操一です。  
地区では牛山委員長のご指導をいただいております。  
又今年度は牛山会長はじめ川崎大師RCの皆様の一年間の活動が実り多きものとなる事を祈念申し上げます。

宮山 光男会員

①7月24日、仙台市の江陽グランドホテルにおいて姉妹クラブの佐沼ロータリークラブの  
鈴木彦太パスト会長にお会い致しました。御本人はとてもお元気でした。

水口 衛幹事

川崎RC、野中会長、横田幹事、ようこそ大師RCの例会へ。  
又、先日の会長・幹事会おつかれ様でした。

牛山 裕子会長

川崎クラブ 野中会長、横田幹事様、ようこそお出まし  
下さいました。

青山様、卓話をよろしくお願い致します。

横浜中RCの谷川様、今年度も地区米山奨学金増進委員  
会でお助け下さいませ。

そして、皆様には私共の例会をお楽しみ下さいますよう。

本日のニコニコのテーマ

「青山様、本日の卓話宜しくお願い致します。」

横山 俊夫、野澤 隆幸、鈴木 幹久、坂東 保則

竹田 正和、鈴木 昇二、伊藤 佳子、布川二三夫

岩井 茂次、矢野 清久、猪狩 佳亮、高濱 玲奈

寺尾 巖、石渡 勝朗、永松慎太郎、竹中 裕彦

合計 44,000円

## 委員会報告

親睦活動委員会 中村 孝委員長

8月10日 暑気払い移動例会 出欠の返事がまだの方  
は速やかにご連絡下さい。

当日6時点鐘なので5時30分に川崎より送迎バスが出  
ております。

場所は、丸井の前あたりです。日航ホテルの手前になり  
ます。ニュー桜苑というロゴの入ったバスが迎えに来て  
いますので送迎希望の方は5時30分にお集まり下さ  
い。



エイジングプログラム委員会 野澤 隆幸委員長

例会終了後、第1回エイジングプログラム委員会を開  
催します。

御出席をお願いします。



職業情報委員会 鈴木 幹久委員長

金澤委員長、牛山会長より要請がございましたので今年  
3分間スピーチをお願いしようと思っております。

趣旨は、従来職業等について職業奉仕委員会、職業奉仕  
に関連づけたいと思っております。

会員の皆様のご理解、協力関係促進をどうするかという  
視点に立ってお話をいただくように考えております。

3分ですので手際よく皆さんの①職業の内容を知ること  
と、②それから成功談もございますがむしろ失敗談を通  
してそこから得た教訓をご披露いただき各人の皆さん、  
会員の人となりを通して知るところも一つの考えではな  
かろうかと思ひます。ロータリーではあまり仕事の話をし  
ないですが、当初ロータリーが始まった時は相互補助



国際奉仕委員会 猪狩 佳亮委員長

国際奉仕委員会開催のお知らせです。来週8月3日水曜日午前11時から理事会の裏の会議室で国際奉仕委員会を開催致します。多数の方のご参加をお待ちしております。姉妹クラブ委員会の磯田委員長も是非お待ちしております。



地区リーダーシップ研修会報告 中村 眞治会員

昨日26日ぴおシティ（桜木町駅前）で午後3時～5時まで2770地区の中村さんという講師の方をお招きしての研修会がありました。決められたテーマについて、みんなで意見を自由に出し合っけて討議する際の手助け（司会・進行）をするリーダーの研修。ロータリーは人員も減っているところで今年度、ロータリーの啓蒙と同時にもう一度ロータリーを見つめ直そうという事で開催されました。昨日配布された冊子、サマリーです。先々規定審議会で変わっていくロータリーの姿、プログラムなどは皆様と相談したく思っております。今年度是非卓話をさせていただきたいと思っております。



卓話者紹介 横山 俊夫会員

青山 正彦様

昭和31年生まれ  
川崎生まれ、川崎育ちで今のお住まいは川崎区小田栄勤務先は川崎区駅前本町に事務所を構えておられます。

略歴：

昭和50年川崎市役所に入所  
平成23年4月～平成25年3月 川崎市立富士見中学校校長  
平成27年3月川崎市役所退職  
NPO法人こども未来塾 理事長  
株式会社ユーフォリアファミリー 代表取締役  
NPO法人 小杉駅付近エリアマネジメント 理事  
NPO法人 ジェントルハートプロジェクト 理事・事務局長  
アレアファーレかわさき 事務局長

元川崎大師RCメンバーであり、草野球同好会の中心的メンバーでした。  
本日は縁あってこの席に来ていただきましたが、会員の増強も兼ねて内田プログラム委員長が声をかけてくださいました。  
いろいろなことをされていますが特に、青山さんが渡田中学校でPTA会長をされている時、私は川崎区連合の会長をしておりました。  
そこで出会ったのがきっかけで子供を通じて今日まで私も一緒にいろいろなことをさせていただいております。  
今日はNPO法人こども未来塾の理事長としてお話をいただきます。  
是非ご静聴宜しくお願いします。



卓話

NPO法人こども未来塾理事長 青山 正彦様

大変懐かしい場所です。

すっかりきれいになったという印象があるくらいの間が開いております。

いくつか略歴をご紹介いただきましたが、一番最後にあります、子供たちを通じて活動という中では、その団体の代表は横山さんにこの11年間担っていただいておりますし、私もその事務局長として一緒に活動をしていただいた部分もあります。

今日、例会にお集まりの方の何人かは当時こちらに所属していたときには大変お世話になり、真っ黒になりながら野球をやった同じメンバーとして大変懐かしいです。今日は立場が変わり3月に少しフライングぎみに会社を辞め、自分のやりたいこと、やるべきことというミッションを持って会社を立ち上げNPOを立ち上げることになりました。

不思議なもので、退職すると別のところからいろいろお声をかけていただき、こういう話をしていただけなくて、役所の肩書きがとれたらとれたなりの形があったりします。

手元に3枚ほどコンパクトにまとめて30分のうちの中で収まるようにいたします。

そうかといってもあまり展開しすぎてしまうと話が散らばってしまいますので、私共が今子供の貧困対策に何をやっているかということに入る前にやらなきゃいけないことというのはそう大して違いがないと思うのですが子供たちがどういう環境で育っているのかということは以外と知られていないと思います。

生活が苦しいのだというのは大人の方は手を上げたり発言もしたりしますがなかなか子供たちが自分の身の上を積極的に訴える、社会に訴えるとかというのは実態としてありません。

子供の貧困というのはなかなか見えにくい状況になっているのは現実です。

近頃では新聞、ニュースでこども食堂開設などを通して子供たちの置かれている現状が少しずつ社会に出てきたかなと思っております。

私共のNPO法人は子供たちの就学援助、居場所、学習支援、子供食堂の運営などを全身をカバーできるような活動につなげていければと思っています。

「子どもの貧困、負の連鎖が将来に繋がっていく ～今、大人ができることは～」

・子供たちはどんな時代に生きているのかな？

皆様方が小さかった時とは大きく変わってきますし一番最近では大人も子供も夢中になっている。ポケモンGOとかバーチャル的なもの、日常とバーチャルが融合したような大変優れた技術ですがそれが日常の生活で使われ

るときに少しずつ、うまくやっていると大きな摩擦も起こしてしまうこともあります。

子供たちはどのような時代を生きているのか大きく分けるとストレスをため込む子供たち、子供の研究者の中でいわれています。

どういう形で現れているかという①～⑤まで残念な数字が並びます。

①不登校の児童生徒は、全国で12万3千人（文科省：2015年8月）

②15歳～39歳のひきこもりは、70万人（内閣府：2010年7月）

③暴力行為 小中高校で5万4千件（文科省：2015年9月）

④いじめ 小中高校での認知件数は、18万8千件（文科省：2015年10月）

⑤自殺 小中高生は、1年間に329人（内閣府：2015年10月）

①川崎では53校の中学校がありますが、2校分の生徒が日常的に学校に行っていないというのが現実です。

これは10年前からほとんど変わっていません。

悠々クラブとかいろんな摘要指導教室が策を講じていますがそれでも数は減っていないので、実体的には増えているというのが事実になります。

②ひきこもり  
よくでる話です。

③暴力行為でここで心配なのは5万4千件の内訳です。

これは小学校が大変多いということと、一昔前に大人にむかう暴力というのが生徒間同士に移っています。

この暴力行為の6割が生徒間のトラブル、教師に対する部分というのは非常に少なくなっています。

16%位です。小学校では7年間で3倍ということになっています。

④いじめに関しては18万ですがこれも小学校が12万という数です。圧倒的に小学校です。

このいじめは認知されたという形なので報告に上がった数です。

報告を上げてない学校が約半数弱あります。

つまり自分の学校にはいじめがないという、認知していないということもありここはそういう問題も含まれています。

⑤自殺に関しては小中高校生は329人ですが大学生、専門学校生を合わせると860人という数になり、かなり跳ね上がります。

15歳～39歳、学校を終えてから20代、30代の各年代における死因の第1位は自殺になっています。2番目はちなみに不慮の事故です。若者だからということもあるかもしれませんが各年代ではそういう形になっています。

2番目にストレスフルな社会だということでこういう数字が直接的も間接的にも影響があるだろうなと考えられている中です。

子供たちを取り巻く環境も大きく変わってきました。家庭生活です。私にも子供がいて所帯持って孫がいます。ですから今の親の批判というのはつまり私の子育ての批判になるんですね。

自己批判をしなければいけない。小学校にあがる子供を育てている若い夫婦は私たちの世代の子供です。今の若い世代の批判は私の子育てをしなければいけないのですが、なかなかここに向き合えないところがあると思います。

私もたぶん街中で見たときに全部自分の教訓、反省につながるかと、人間そううまくできていませんので、やはり若い世代、若い人たちは・・・といわれているのは、紀元前から始まっている話なので今に始まった問題ではないです。

世代を超えてそういうものの社会作りが望ましいのだろうけれど、家庭環境からいくと二極化している現実があります。

ネグレットと過干渉、どちらに対しても子供に影響が与えられる。

子供が親の保護を求めるときに、保護しない。自分が殻を脱皮して自分で決めていきたい、自分で考えていきたいといっても過度な干渉をしていく。

これはどちらにしても子供の成長にふさわしくないだろう。量的には過干渉の親が多いです。

役所を辞める前は子供支援室というところの室長をやっていたので0歳～18歳までの子供の支援が主だった部分です。私の感覚でも過干渉の親御さんが大変多いなど、子供が少ないですから気持ちとしてはわかります。子育てで失敗したくないという気持ちが強く働く結果として過干渉になってしまうのかなと思います。親も正しい親で頑張ろうとして、結果的には子供を追い詰めてしまっている。

そういう親御さんが何かあったときに必ず口にするのがあなたのためだから・・・です。

子供はあなたのためだから嘘というのは十分知っています。

あなたのためではないです。親のためです。すべて見通していますが生活をすべて握られてしまっているため、ある程度までは我慢します。我慢がきかなくなった時に

暴発します。

10代でか20代でか様々な形態があります。これは学校における教員と生徒の信頼関係と同じです。

教員のいうことをきくというのは評定を握っているからです。子供はこれを投げ捨てた時には先生のいうことをきかなくなります。

学級が崩壊したり、学年が崩壊したりします。

子供は親でしろ、教員でしろ大人の二枚舌というのは承知しています。

親の面子、教員の面子にうまくつきあってくれます。

限度を超えた時が問題です。

広がる格差ということで、この格差も貧困の加速と言われる。

私も渡田中学校のPTA会長をやった時にも感じましたし、震災があったちょうど5年前に富士見中学校に赴任した時にも川崎駅から競馬場まで、川崎の繁華街を抱えた子供たちにとっては刺激的な場所なので、貧富の格差は昔からあります。多国籍であり、多民族であるという二重三重の多様性がある学校ですが、そこでもいやというほど思い知らされました。

今、これほど生活保護世帯が多いのかと、これほど就学援助、準保といわれ生活保護の一手手前ですが、こういう世帯がこんなにも増えているんだと、4月になると申請用紙が来ます。私の校長室の机に山になりました。750名の生徒がいたわけですが、選んで配れないんです。全員配布です。

該当すれば出してくださいという話なので相当な量が出てきたことを記憶しています。

次の部分ですが、生活保護世帯、こういうところがどうい風に子供たちに影響するかと。

生活保護世帯で31%、ひとり親世帯41%、児童養護施設の出身者で子供が大学の進学率22%、全世帯では73%という数値になっているので、明らかに高校進学から大学進学の時点でこういう格差がでてしまう。



もちろん高校から大学進学がその後の社会生活や社会的スコアの高いところにつくとは絶対的な保証ではないですが

職業選択の幅の広がりには明らかに違います。

ここまでが子供たちがどういう時代に生きているのか、ストレスフルな社会だということが数字に出ています。子供たちを取り巻く環境が、そういう環境である子たち、子供たちはこういう時代を生きている。

ここを私たちが小さいときと比べていけばどのような違いがあって子供たちが大変忙しくまた親の期待を一心不乱に背負う、社会人になり一緒に世帯を持ちたいと思う人ができた時でも圧倒的に今の結婚は長男・長女の組み合わせが多いです。

1人、2人という子供ですから男、女という風に産み分けたとしても、両方とも長男長女ですから圧倒的に長男長女の組み合わせがおおくなります。

これから世帯の構成や我々の子供や孫たちがどういう風に家族を形成していくのかももう明らかに20年30年の間にドラスティックに変わってきたのかなと思ってます。そういう形に対応していかなければならない。高齢社会が現実になりました。ある地域は50%を超えている、2024年というタイムリミットも近づく中、そういう形で持続する社会を大きく変えて作り上げなければいけないです。

この国の担い手である子供たちの環境があまりにも見過ごされている状況です。

国はかなり声だかにものをいっていますが、実はGNPベースに落とすと日本はそんなにお金をかけていない国です。

その結果、フランスやアメリカと違って合計特殊出生率、つまり子供が増えていないという結果になっています。これを高齢の社会になった時に子供が増えない、少子化ということを高齢社会に家庭に責任を、介護が必要になったものを家庭にと、2度目の大きな間違いを起こそうとしているのが我が国の現実だということです。

子ども食堂だけ取り上げましたが、なぜ今子ども食堂が注目されているかということです。

衣食住ということでは食べ物ということとはとても大切です。

今夏休みに入りましたので、ひとり親家庭でお母さんがダブルワークで働いていてお母さんが朝起きない。

子供が気をつかって朝ご飯はいりません、腹ペこで学校に行きます。唯一の栄養源は学校給食です。

中学校ももうじき始まります。家に帰るとキッチンに何百円か置いてあります。

子供ですから栄養のことなど考えたりしません。やはりお菓子とかコンビニのお弁当が中心になっていくと、かなり体重が減少します。それは学校給食がないからなんです。

命を繋ぐという意味では本当に、戦後間もない時期と見間違うようにある一定の貧困率の子供たちの命を支えて

いるというのは学校給食であるといっても大げさな表現ではないです。

こども食堂という部分ですが問題行動を起こす多くの子供たちが空腹を抱えている。

空腹の原因というのは孤食だったり、家族で食べない、いてもひとり親家庭でお父さんかお母さんどちらか、ほとんど子供が一人で食べています。おいしいね、これは〇〇で買ったんだよとかそういう食べるときの会話はほとんどないです。

彼らの暮らしが壊れてしまっていると考えてもいいのかな。

学校であったことも含め、子供たちが1日生活している、夕飯を食べる時においしいとか楽しかったとか、こういう

悔しいことがあったとか、今日話を聞いてくれないし、そういう生活ではやはり難しいだろうなど。

混ざり合っただけの豊かさというのは子ども食堂に来てくれる近所のおじさん、おばさんたちと一緒に年の差はあるかもしれないですが手作りで作ってくれた、作り手が見える関係で異年齢が混ざりあう関係で、声かけしてもらい「うるさいな」と思いながらも、子供たちが他人から心配されたというケースは初めてのケースです。

生まれたときから自分が見ているのは髪を振り乱して働いている母親か入れ替わり立ち替わり、そのまま中学校が終わり、つまり自分のことを心配してくれる普通のおじさん、おばさんに会う機会もなければ声もかけてもらえる機会もない。

そういう環境で育っている子どもたちがたくさんいるということも現実です。

1人ではないということを実感するということは暮らしの中に風をいれていくことが、こども食堂の機能としてあります。

5番目、学校の中の居場所です。

子どもたちは義務教育年齢であれば大半を学校で過ごします。学校に風を入れるというのは工夫が必要かもしれません。

長い間新制中学校ができてから70年近くたちますが基本的に変わってないです。

ここを変えていかなければなりません。なぜ変えていけないといけないか？

根拠ですが、私たちが日頃生活している生活が変わったからです。

学校が変わらなくていいという理由にはならないです。

私も子どもが小学生にあがった時、中学生になった時に今でも覚えています。

学校って変わってないなというのを思います。基本的に変わってないです。

多少変わったとしても30何人機並べて、教員は机と机の間を通して机間指導といいますが、調べ学習とかグル

ープ学習とかいろいろなこと工夫はできてきましたが基本的なスタイルはそこにあります。

さらに今の状況を子どもたちが暮らしてくる。

公立の学校がなぜあえて前向きにしなければいけないかという、川崎は学区は基本的に残っています。ですから小学校に上がるとき、中学校に上がるとき区長名で入学通知がきます。

学校を生徒は選べません。その地域の生活を全部、貧富も子どもたちは背負って学校に行きます。

ですからその貧富の格差は激しいほど地域も荒れるし、学校も荒れます。

この格差をなんとか縮めるといことが地域を豊にしていける。暮らしやすくしていく。

学校教育の、場を基本になるからです。

格差というのは子どもたちからするとやはりねたみや恨みや、温床になってきます。

学校の中に子どもの居場所を作るといことは大人がしていかなければいけないということです。

4番目、私たち大人に出来ることがあります、これは私たちが育ってきた中で忘れてしまうことなど思い出しながら自分の話をしっかりと聞いてくれる大人の存在を身近に感じる事が出来た時に初めて自分の問題に向き合おうとすることが出来ます。

これは子どもだけでなく大人でも一緒です。

会社立ち上げ大変だと聞いてくれる、向き合うことによって、そういうことに向き合える。

子どもだったら、そういう論理構成はないですよ。でも自分の問題に向き合おうとすると、注意されたとき、親から注意された、先生から注意されたときそういうものが安定しない。

腹も空かして寝不足でそういういろんな事の心配の中で、自分の問題によく考えろと言われても、考えられない、向き合えない。そのために子どもが壊れてしまっている暮らしを立て直すことが必要だろうなど。

子どもの怒りの感情の理解、これは子どもにも分かっていないところで起こっている怒りが何かなぜかとする自分とは同級生と比べて不当とは思わない、でも納得いかない、自分の暮らしに同じ学校に行っているのだけどなぜ自分にご飯を3食食べられないのかなと、自分はなんでこうなのかなと、そういうことに対して聞いてくれる人もいない、心配してくれる人もいない、理解されない共感されることもなく、放っておかれた子どもたちというのはやはり、苦しいし、孤独だし、切ないし、恐れや寂しさなどがあるときに怒りに変わっていきます。本来怒りでない感情が怒りに変わっていくことがあります。わけのわからない怒りというのが周りにはもっと分からないです。

なんで怒っているんだよというんですね。本人も怒りの源が分かっていないために暴れてしまう。

なので、ますます悪循環に陥ります。子どもの怒りの感情の理解というのはなんでこの子はそういうところに怒りを持っているのかなと、解きほぐしてあげなければいけない、

解きほぐすときには共感や傾聴や様々なプロセスを通じて源に触れていかなければならない。

これは非常に専門的なスキルが必要になってきますが私たち一般の人間は大丈夫？とか、楽しかったねとか、共感、悲しい思いをした子どもに「ああ、そうそれは悔しかったよね。」共感してあげることとか、それで気持ち分かってくれるんだと、そういう扉を開けさせるようなもの、子どもの試し行動で大人を試します。

口でこういうことを言っているんだけどこの校長は本当に俺たちのこと心配しているのだろうか？

と試し行動をします。そういうリアクションをみながら、なんだ違うんじゃない、校長としてのステイタスが必要なんだろとか、大人としての見栄だろとかそういうことの試し行動に向き合う。

だいたい大人がここで失敗は多いのです。後は私を見て、気づいてというシグナルを出しています。

失敗して多くのものを学ぶ、失敗してこそ次への成功、失敗せずに成功というのはありえません。

失敗を繰り返して、糧にしてという話もありました。

まさにその通りだと思います

成功例からは学ぶものは少ないと思います。

たくさん失敗し、すねに傷を持ち場合によっては背中に十字架を背負って、それぐらいの傷だらけ、泥だらけになりながら学ぶものが大変多いかと思えます。

安心して失敗できる環境を作ってあげる。

最近これも難しいですね。大人でもセーフティーネットが切れちゃっていますから。

地べたにたたきつけられちゃうという部分があります。

どういうふうなものを家庭でも地域でも学校でも安心して失敗できる環境、大人がぴりぴりして余裕がないと、子どもは敏感に感じますから成功するチャレンジはしないです。大人が言っているかけ声倒れになります。

子どもたちはさっき言ったようにうまくその辺はつきあいます。親のかけ声とか教員のかけ声にうまくつきあいます。

本当のチャレンジとは思ってもいません。

加害者であっても被害者であることが圧倒的に多いということです。

今はこういう子なんだけれどもかつては逆に被害者だったかもしれないケースがかなりあります。

暴力行為やいじめかなり多いです。

弱音が吐ける「助けて」と言うことが大切である。

大人でも疲れたとか困ったなと言うそういうものをいえる環境がないとそうそう人間命を張って生きている訳にはいきません。





特に子どもに関して言えば困ったとか誰かに助けてほしいとか、そういうものをいえる環境が必要なのかなとようやくそういうところは少しずつスクールソーシャルワーカーと教育の分野と福祉的な分野の専門家が配置されるような巡回されるような形ようになってきましたがまだまだ足りないですね。子どもが困っているのは実は学校で困っているんですが、学校のことで困っていると言うよりは福祉的なことで困っていることがおおいです。

学校の専門家でなく福祉の専門家がそれにあたるのがいいのではないかなと思っています。

存在が希薄な子どもたちは存在を伝えたくてわざわざ問題行動を起こします。

誰も気づいていない、空気のような存在で消えてしまいたいと言うような子どもたちはひきこもりにつながることもありますし原因となることもあります。私なんかいなくても関係ないんだ、学校でもクラスにいてもいなくてもいいし、指されもしないし、はっぱをかけてもなかなか難しい、存在の希薄な子どもたちにどうやって存在感を持ちえるか、学校で困り感の強い子たちは子どもにとっては困ったことだねという言い方をしますが、本当は子どもの方が困っているんです。それに気づいてあげられない大人が多くはないというところに大人たちの気づきの問題があるんだと思います。

そして何よりも大切なことは、この国の未来を担うのは子どもたちで間違いないです。

世の中絶対という言葉はいくつもないです。世の中で絶対ということは100%死ぬことです。

これはだれでも100%死ぬんです。ですから、死んで、生きて、死んで、生きて国というものは世代交代をしていく、この国の次の世代は子どもたち、孫たちがやはりこの国の未来を担う子どもたちが生み育てること国民的コンセンサスが大切なんだろうな。

このまま行けば統計的には日本は消滅すると知っていますよね。ですからそういうことが統計的にならないようにしていかなければならない。馬鹿の壁を書かれた養老孟司さんが言っていました。

大切にしたいものが減っていく、大切なものを大切にしない者が増えてる。

自然の小動物でも人間でもいえることです。同じ動物ですから、大切にしていかなければいけない。

子どもたちが大切にされているのを自覚をもった形が必要なのかなと思います。

どういう形に子どもたちが育っていったらという問題が形態化しているかについて、こういう卓話という機会を通じながら少しでも関心を持っていただければ幸いです。

ありがとうございました。

謝 辞

牛山 裕子会長

青山様、どうもありがとうございました。  
本日私共のクラブの今年度第1回の卓話でございましたが非常にインパクトがあり私共の青少年奉仕、社会奉仕、職業奉仕の原点をいただいたようで本当に私たちの活動に参考にさせていただけます。今後ともどうぞ宜しくお願いします。ありがとうございました。

●点 鐘 牛山 裕子会長

野中会長様、横田幹事様、谷川様今までおつきあいくださいましてありがとうございました。それでは点鐘閉会いたします。

日時：平成28年8月10日(水)は  
暑気払い移動例会です。

場所：焼肉ニュー桜苑

小林 勇次／秦 琢二／沼田 直輝

クラブ  
会報  
委員会